

■フランス：規制機関、新型コロナに伴う発電所保守作業の遅れについて協議

フランス原子力規制安全局（ASN）のドロスチュク局長は2020年4月28日、上院の国土整備・持続可能な開発委員会の公聴会において、新型コロナ感染拡大による国内の原子力発電所の保守作業の遅れについて、対応をフランス電力大手EDFと協議していると述べた。外出制限により作業員や下請け企業の確保が難しくなっているため、春から夏に予定されていた保守作業に遅れが出ており、冬の電力供給に影響を及ぼす可能性が生じている。EDFは、一部の保守作業の先送りなどの対応案をASNに提示しており、ASNは前向きな態度を示している。また、同局長は同日の公聴会で、EDFに対し2020年6月までに義務付けていた最終バックアップ用非常用ディーゼル発電機の設置期限を延長すること、90万kW級原子炉の運転期間延長に係る意見表明は予定どおり2020年中に行うこと、ラ・アーグ再処理工場の一時停止により、使用済燃料の貯蔵場所確保が課題となっていることも明らかにした。